「水資源機構　共同開発型による技術開発」

水資源機構

技術開発パートナー募集



先進技術を 水インフラ管理の現場へ

水資源機構では、現場が抱える技術的課題を新たな技術の開発と現場活用によって解決するため、民間事業者等の皆さまと共同で技術開発に取り組む「共同開発型による技術開発」制度を創設します。

背景・課題

技術課題の複雑化・多様化・高度化

気候変動、災害リスク、施設老朽化等、喫緊の課題への対応が求められています。

現場ニーズへの迅速な対応

様々な課題を解決するため、即応性のある技術の開発が求められています。

既存の枠内での対応の限界

他分野を含めた先進的技術や情報を積極的に採り入れることが求められています。

開発技術の実装へ向けて

✓ **課題解決に向けて、２～３年の期間で開発**

他分野・他のフィールドで実用化済の技術も歓迎します。
共同開発後は、実証・導入準備段階を経て、現場活用を推進します。



公募から共同開発まで

技術開発の公募



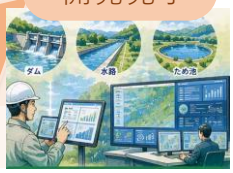
知見・技術経験の持ち寄り



共同開発



開発完了



実証・導入準備へ

公募 → 応募（企画書の提出） → 審査 ヒアリング → 協定締結

提出された企画書をもとに、審査・ヒアリング・対話を行い、その結果をもとに共同開発者を選定します。

機構の実施内容等

技術開発費用の負担



技術開発にかかる費用の一部を機構が負担します。

知識・知見の提供



- 管理記録
- ノウハウ
- 既往調査結果

機構が培ってきた技術的な知識・知見を提供します。

現場フィールドの提供



- ダム
- 水路
- 河口堰等

機構の保有する様々な施設を現地試験のフィールドとして提供します。

現場活用へ展開予定



共同開発後、実証・導入準備を経て、機構業務に展開予定。機構施設の建設や管理へ導入していきます。

知的財産の扱い



新たに生じた知的財産権等は共有し、実施条件等は個別に協議の上、定めます。

技術を試す。
現場で磨く。
未来を変える。

水資源機構

共同技術開発型の応募要領・開発テーマを公開中！

共同開発型による技術開発制度の応募要領や公募中の開発テーマについては、水資源機構ホームページからご確認ください。
https://www.water.go.jp/honsya/honsya/torikumi/gijyutu/kaihatu/index.html